

報告案件

金沢市都市計画マスタープランの改定について (専門委員会報告)

金沢市都市計画マスタープラン改定の状況について

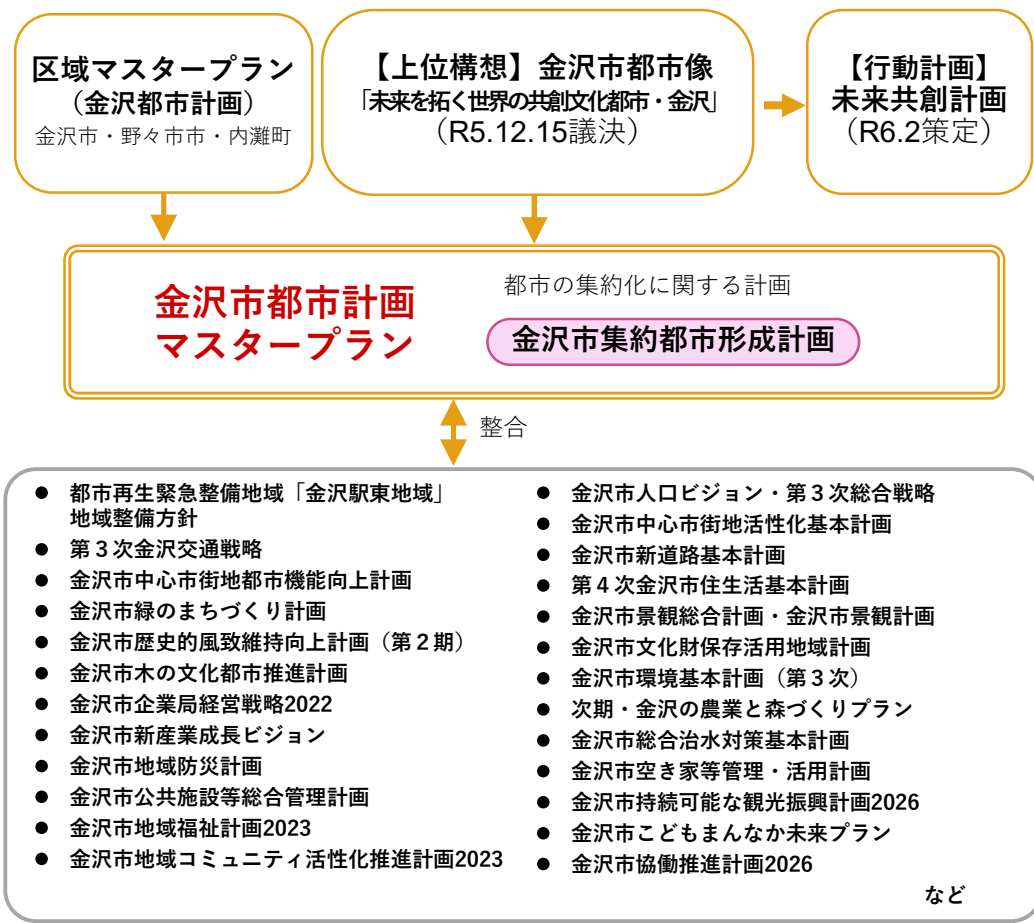
■改定の目的

令和6年度に実施した「金沢市都市計画マスタープラン2019」の評価検証の結果及び、上位・関連計画の状況や社会情勢の変化等を踏まえ改定を行うもの。

■計画の位置付け

上位計画である「未来共創計画」や、県が作成する「金沢都市計画区域マスタープラン」などの方針を踏まえ、本市のまちづくりに関する基本的な方針を示すもの。なお改定にあたっては、様々な分野の関連計画との整合を図る。

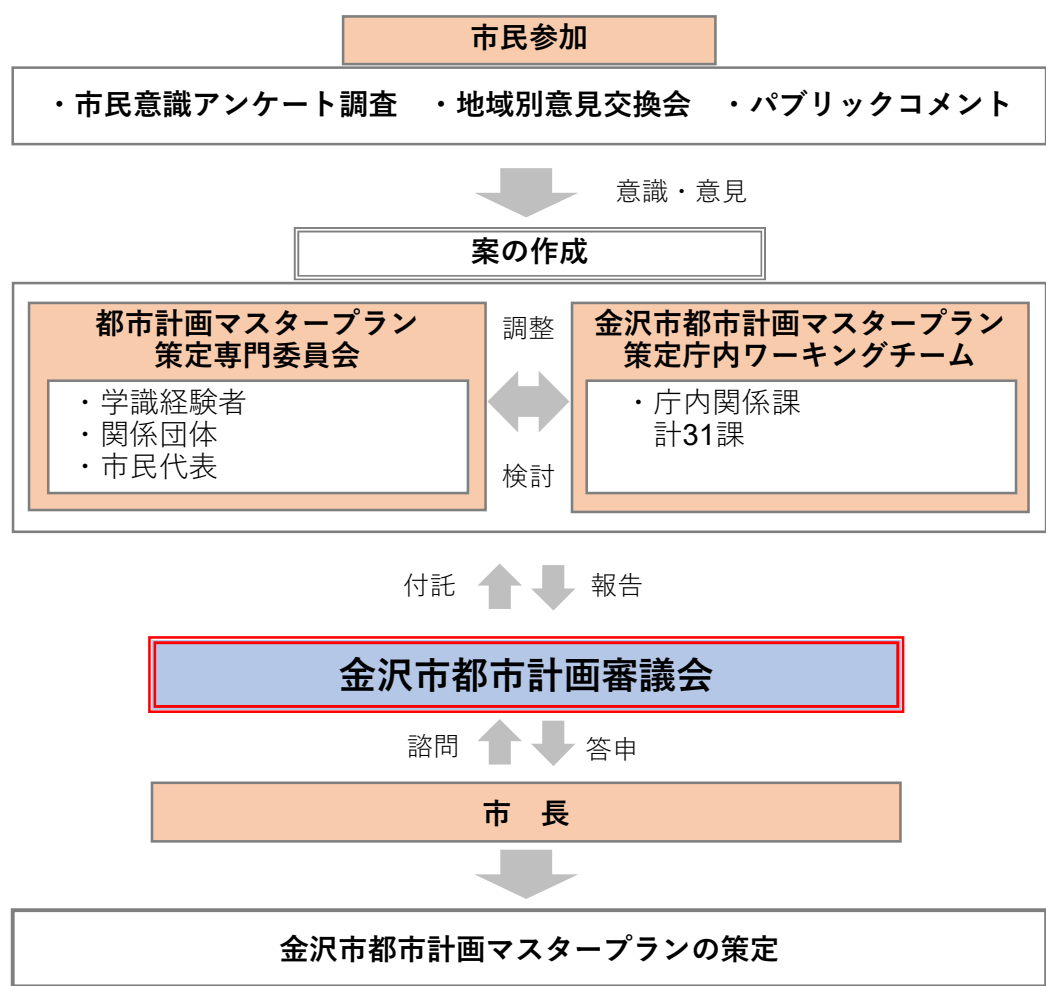
◆図_金沢市都市計画マスタープランの位置づけ



■検討の体制

計画の策定にあたり、市民のまちづくりに関する意識や意見などを計画に反映させるため、市民意識アンケート調査、パブリックコメント、地域別意見交換会などを実施するとともに、関連計画との整合を図るために組織した「金沢市都市計画マスタープラン策定庁内ワーキングチーム」、学識経験者や各種団体、市民代表者で組織した「都市計画マスタープラン策定専門委員会」にて検討を重ね、令和7年度から令和8年度にかけて策定する。

◆図_策定体制



■改定スケジュール

年度	体制	検討の流れ	市民意識や意見の反映
令和7年度	【8/8】 第1回専門委員会 【12/23】 第2回専門委員会 【3/11】 第3回専門委員会 【3/23】 都市計画審議会	序章 計画の策定にあたって ■全体構想 第1章 都市づくりの視点と課題 第2章 都市の将来像 第3章 都市づくりの方針 ○土地利用の方針 ○市街地整備の方針 ○交通施設等整備野方針 ○公園緑地整備野方針 ○主な供給処理施設整備野方針 ○公共公益施設整備野方針 ○農地と森林の整備、保全、活用の方針 ○景観・都市環境形成の方針 ○安全安心な都市づくりの方針 ○多様な主体の協働によるまちづくり方針 第4章 重点地区のまちづくり方針	【8/18～9/26】 地域別意見交換会 ※市内9ブロックで開催 参加者数：374名 【9/1～9/19】 市民意識アンケート調査 ※市民10,000名を対象に実施 回答数：3,339票（率33.4%）
令和8年度	専門委員会（3回程度） 都市計画審議会	■地域別構想 第5章 地域別のまちづくり方針 ■計画の推進に向けて 第6章 計画の推進に向けて	地域別説明会 パブリックコメント
改定金沢市都市計画マスタープラン取りまとめ			

序 計画の策定にあたって

- 序－1 計画の概要
- 序－2 既定計画の概要と中間評価
- 序－3 既定計画に基づく都市づくりの取組

第1章 都市づくりの視点と課題

- 1－1 位置・地勢
- 1－2 都市の変遷
- 1－3 社会情勢の変化・動向
- 1－4 上位計画（未来共創計画）の概要
- 1－5 都市づくりの視点
- 1－6 都市づくりの課題

第2章 都市の将来像

- 2－1 都市づくりの目標
- 2－2 都市の将来像と基本方針
- 2－3 都市の構成

第3章 都市づくりの方針

- 3－1 土地利用の方針（秩序ある都市づくり）
- 3－2 市街地整備の方針（市街地基盤づくり）
- 3－3 交通施設等整備の方針（交通体系づくり）
- 3－4 公園緑地整備の方針（憩いの場づくり）
- 3－5 主な供給処理施設整備の方針
（市民生活を支える基盤づくり）
- 3－6 公共公益施設整備の方針
（市民ニーズに応じた施設づくり）
- 3－7 農地と森林の整備、保全、活用の方針
（農林基盤と活力ある田園・中山間地域づくり）
- 3－8 景観・都市環境形成の方針
（自然と歴史を生かした景観・環境づくり）
- 3－9 安全安心な都市づくりの方針
（災害等に強い環境づくり）
- 3－10 多様な主体の協働によるまちづくり方針

第4章 重点地区のまちづくり方針

- 4－1 重点地区の設定
- 4－2 重点地区のまちづくりのテーマ
- 4－3 重点地区のまちづくり方針

第5章 地域別のまちづくり方針

第6章 計画の推進に向けて

■都市づくりの視点（案）

■社会情勢の変化・動向	■未来共創計画の基本方針
・ 人口減少、少子高齢化の進展 ・ 市街地の拡大と都市のスポンジ化 ・ 都心軸の面的な整備の加速化 ・ 価値観の変化・多様化 ・ デジタル革新による産業構造の転換 ・ 観光需要の高まりとグローバル化の進行 ・ 地球温暖化への対応と脱炭素社会の実現 ・ 自然災害の激甚化・頻発化 ・ 多様な主体との連携による地方創生の加速化・深化 ・ 公共施設等の老朽化・市民ニーズの変化	● 世界に誇る 伝統と創造の文化が息づくまち ● 多様な人々が共生し、 心豊かに暮らせるまち ● 共に学び、 未来を創る人を育むまち ● 創造・変革により 成長するまち ● 活力と個性があふれ、 安全で持続可能なまち ● 令和6年能登半島地震を教訓とした 災害対応力の強化と公共インフラの強靱化
■現行計画の中間評価（R6年度）から見える課題	
■ 定住の促進や空き家等の管理・活用 ■ 都市再生特別措置法の活用による中心市街地の魅力向上 ■ 公共交通による移動環境の充実 ■ 新たな工業団地のあり方検討 ■ 田園・中山間地域の集落環境の維持・再生に向けた基盤づくり ■ 良好な都市景観の創出や公園緑地の利活用 ■ 市立病院の地域医療支援病院としての機能充実 ■ 災害対応力の強化に向けた地域防災計画の改定 ■ 被災した公共インフラ等の早期復旧の推進	
■市民意見から見える主な課題	
★ 定住促進施策の推進（空き家等の管理・活用） ★ 都市再生緊急整備地域における老朽ビルや施設跡地の開発促進 ★ 公共交通の利便性の確保・維持 ★ 身近な公園の避難場所としての活用 ★ 子育て世帯を呼び込む施策の充実（遊び場としての広場整備） ★ コロナ禍や能登半島地震、豪雨災害からの教訓を踏まえた災害対策の強化 ★ 水防対策、道路冠水、地盤沈下対策の強化 ★ 積極的な企業誘致による働く場の確保 ★ 鳥獣被害対策の推進（鳥、クマ） ★ 地域の資源や歴史資産の保全・活用 ★ 田園・中山間地域の過疎対策 ★ 外国人との共生 ★ 耕作放棄地の活用検討 ★ 良好な河川景観の保全	

都市づくりの視点	都市づくりの課題	
歴史と伝統が息づく 共創文化	● 歴史文化遺産の保全と活用 ● まちの品格を高める景観形成	
活力と魅力あふれる 中心市街地	● ハレの場としての都心の再構築 ● 歩きたくなるまちなかの形成	
便利で快適な 生活を支える 都市基盤	● 誰もが暮らしやすい生活基盤の整備 ● 広域的な交流と円滑な移動を支える交通基盤の整備	
災害に強く 人にやさしい 安全・安心な暮らし	● 災害に強いまちづくり ● 健やかな暮らしを支える人にやさしいまちづくり	
創造・変革する 産業構造	● 新たな産業の創出と産業全体の成長・発展 ● 農林業の持続的な発展	
未来につなぐ 自然環境・地球環境	● ゼロカーボンシティかなざわの実現 ● 身近に自然を感じられる環境の形成	
多様な人々と共生 する地域づくり	● 地域コミュニティを核とした地域力の維持再生 ● 多様性を認め合う共生社会の実現	

都市づくりの課題（案）

■：新たな課題、■：変更した課題、■：継続する課題

●：未来共創計画に関連する課題、■：中間評価から見える課題、★市民意見から見える課題

視点１：歴史と伝統が息づく共創文化

本市の歴史と伝統が息づく文化を継承するとともに、都市の品格を高め、これまでの文化に新たな価値を加えながら、すべての人々と共に創りあげ、発展させていく都市づくりが必要です。

【歴史文化遺産の保全と活用】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
1	地域全体で「金沢の歴史文化遺産」を守り育てる体制の整備促進	●		★
2	金澤町家の保全と活用の推進	●		
3	「かなざわ新町家」の普及促進	●		
4	歴史的建造物群の保存と活用及び歴史的街並みの保全	●		
5	城下町の都市構造を伝える用水・広見などの保全と活用	●		
6	金沢の風土が育んだ庭園文化の振興	●		
7	歴史文化遺産と調和した周辺環境の形成	●		

【まちの品格を高める景観形成】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
8	金沢の個性豊かな景観の継承	●		★
9	景観の新たな魅力の創出と発信			★
10	金沢固有の地形や自然が生み出す斜面緑地や川筋景観、用水景観、眺望景観などの保全	●	■	★
11	まちなかエリアを対象とした無電柱化の推進	●		
12	木の文化都市を継承・創出するまちなみの形成	●		
13	周辺の景観との調和に配慮した建築物高さの適正な誘導			★
14	金沢港と都心軸の繋がりを意識した景観の形成			

視点２：活力と魅力あふれる中心市街地

人口減少や少子高齢化が進展する社会にあっても、骨格となる都心軸の再興により中心市街地の魅力を高め居住や商業・業務などの都市機能を集積するとともに、都心軸などの公共交通重要路線を軸として、沿線への緩やかな居住などの誘導を図ることで、持続的に成長・発展する都市づくりが必要です。

【ハレの場としての都心の再構築】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
1	中心市街地への都市機能の誘導・集積		■	★
2	都市再生緊急整備地域における地域整備方針に沿った開発の誘導・促進	●	■	★
3	中心市街地活性化基本計画に基づく魅力的な商業環境の創出などに向けた活性化施策の推進	●		★
4	まちなか区域の公共空間や遊休不動産等の官民連携による利活用の促進	●		★
5	まちなか区域や居住誘導区域の人口密度の維持		■	★
6	重要路線を中心とした公共交通の利便性の維持・向上	●	■	★
7	空き家・空き地等の低未利用な土地や建物の適正管理と利活用	●		★
8	国内外からの来街者や市民にとって快適な受入環境の整備	●		
9	海外誘客の推進と観光客の増加を踏まえた受入体制の充実・強化	●		
10	様々なニーズに対応した観光を軸とした交流機会の充実	●		

【歩きたくなるまちなかの形成】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
11	歩けるまちづくり協定のフォローアップ・拡大などによる歩けるまちづくりの推進	●		
12	自転車・歩行者双方が安全に通行できる空間づくりの推進	●		
13	歩行者・自転車・公共交通の利便性の向上	●		★
14	歴史文化遺産や魅力的な景観を生かした回遊性の向上	●		

視点3：便利で快適な生活を支える都市基盤

まちなか区域や居住誘導区域への緩やかな集約都市の形成を図りつつも、市街地全体の暮らしやすい生活基盤を整備するとともに、田園・中山間地域の集落機能の維持を図ること、誰もが暮らしやすい都市づくりが必要です。

【誰もが暮らしやすい生活基盤の整備】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
1	民間開発の適正な規制等による良好な近隣関係の構築	●		★
2	空き家・空き地等の低未利用な土地や建物の適正管理と利活用（再掲）	●		★
3	長寿命化計画に基づく公共建築物やインフラ施設などの適切な維持管理及び更新と公的不動産の有効活用		■	★
4	子育て世帯と高齢者世帯が安全で安心して暮らせる住生活の実現	●	■	★
5	地域に密着した商店街などの維持・活性化	●		★
6	市街化調整区域の適正な土地利用の規制・誘導と集落機能の維持		■	★
7	田園・中山間地域における地域交流拠点の形成	●		★
8	周辺市町との連携による土地利用適正化の推進			★
9	石川中央都市圏における公共公益施設の管理及び利用に関する連携の強化	●		

【広域的な交流と円滑な移動を支える交通基盤の整備】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
10	北陸新幹線全線開業と鉄道線（並行在来線・北陸鉄道線）の安定的な経営・運行と利便性確保	●		
11	金沢港の港湾機能の充実と賑わいの創出	●		★
12	東海北陸自動車道へのアクセス道路整備の促進	●		
13	都市内道路ネットワークを強化する放射・環状道路の機能拡充と道路整備	●		★
14	長期未着手の都市計画道路の見直し、選択と集中による必要な道路の整備			★
15	都市内交通や二次交通などの交通基盤の整備や道路交通の円滑化の推進	●	■	★
16	重要路線を中心とした公共交通の利便性の維持・向上（再掲）	●	■	★
17	地域の特性に応じた移動手段の維持・確保	●	■	★
18	公共交通の担い手の確保	●	■	★

視点4：災害に強く人にやさしい安全・安心な暮らし

計画的な災害への備えとともに、日常時・非常時の区別なく生活の質を高めることで、年齢、性別、国籍、障害の有無などに関わらず、誰一人取り残さない、安全・安心で人にやさしい都市づくりが必要です。

【災害に強いまちづくり】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
1	震災や水害、土砂災害、雪害などに備えた計画的なまちづくりの推進	●		★
2	都市再生緊急整備地域や緊急輸送道路沿線における建築物の耐震改修や建替えの促進	●		
3	木造密集地区における防災性の改善や建築物の耐震改修の促進			★
4	管理上問題がある空き家に対する指導・除却、低未利用な空き地等の適正管理と利活用	●		★
5	無電柱化の推進による災害時の道路空間の確保	●		★
6	上下水道施設などのライフラインの耐震化の推進	●	■	★
7	農地や森林が有する多様な機能を生かした治水対策の推進	●		
8	災害時の拠点機能も有する公共施設などの計画的な維持管理と持続的な再整備の実施	●	■	
9	災害の種類や規模に応じた避難場所などの防災施設の確保と高齢者、女性、外国人、LGBTQ等の目線も含めた機能の充実・強化			★
10	災害時における来街者等への情報伝達体制の強化と一時滞在可能な空間等の充実	●		
11	避難情報の提供などによる災害予防対策の推進			
12	自主防災組織の充実と市民防災意識の向上	●		
13	すべての人々が日常から災害時に備えるフェーズフリー意識の醸成			
14	地震被害想定を踏まえた、地域間相互が連携・補完し合う災害に強いネットワークの形成			★
15	大規模・多重・複合災害を想定した復興まちづくりに向けた事前準備の推進	●		

■都市づくりの課題（案）

【健やかな暮らしを支える人にやさしいまちづくり】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
16	生活道路や通学路などの適切な維持管理			★
17	幹線道路や生活道路などにおける交通安全対策の充実			★
18	高齢者福祉施設・子育て支援施設・生涯学習施設・スポーツ施設・広場や公園などの充実	●		★
19	子育て世帯と高齢者世帯が安全で安心して暮らせる住生活の実現（再掲）	●	■	★
20	こども・子育てにやさしいまちづくりの推進	●		★
21	ハード・ソフトのバリアフリー化、ユニバーサルデザインのまちづくりの推進	●		★
22	障害のある人の情報格差解消に向けたICTの活用充実	●		
23	市立病院の再整備と災害時医療救護体制の強化	●	■	

視点5：創造・変革する産業構造

世界に誇る文化をはじめとした金沢の個性を生かした付加価値の高い産業を創造するとともに、デジタル革新による産業全体の生産性向上や基盤の整備、多様な働き方の推進等により、産業全体の成長と発展を促進する都市づくりが必要です。

【新たな産業の創出と産業全体の成長・発展】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
1	地域経済力を高める商業・業務機能の誘導・集積・強化			
2	地域経済をけん引する新たな産業の創出・育成	●	■	
3	デジタル関連企業等の集積による金沢発のイノベーションの創出	●		
4	企業ニーズに対応する工業地の確保	●	■	★
5	主要な幹線道路の沿線における計画的な土地利用			
6	日本海側のハブとなる陸路・海路・空路の優位性を生かした関連産業の活性化			
7	観光・レクリエーション基盤の整備と関連産業の活性化	●		
8	中小企業や小規模企業の振興	●		
9	産業の担い手となる外国人材の雇用支援・育成	●		

【農林業の持続的な発展】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
9	農林業を支える担い手の育成	●	■	★
10	農作物のブランド力向上の推進	●	■	★
11	有害鳥獣被害の防止対策の推進			★
12	市営造林における主伐・再造林の推進による人工林の循環利用	●		★
13	木の文化都市に資する新たな木材需要の創出	●		
14	スマート農業、スマート林業の推進	●		
15	中央卸売市場の再整備、物流機能の強化	●	■	★

視点6：未来につなぐ自然環境・地球環境

本市の豊かな自然環境や、自然環境と調和した良好な都市環境を次世代に継承するとともに、「ゼロカーボンシティかなざわ」を実現するため、脱炭素社会に向けた都市づくりが必要です。

【ゼロカーボンシティかなざわの実現】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
1	自然環境・景観・生活環境等と調和した再生可能エネルギーの利用推進	●		
2	住宅の省エネルギー化や省エネルギー設備の導入促進	●		
3	ごみの減量化の強化や資源化の促進	●		
4	歩行者・自転車・公共交通の利便性の向上（再掲）	●		★
5	市営造林における主伐・再造林の推進による人工林の循環利用（再掲）	●		★
6	木の文化都市の推進による森林等の温室効果ガスの吸収源の拡大	●		

【身近に自然を感じられる環境の形成】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
7	農林業の振興などによる都市周辺の農地や山林の保全			★
8	海・山・河川・用水などの自然環境の保全	●		★
9	公園・緑地・庭園などの豊かな緑の継承と活用	●	■	★
10	公共空間や民有地における都市内緑化の推進	●		
11	都市生態系再生モデル都市にふさわしい都市環境の形成	●		

視点7：多様な人々と共生する地域づくり

多様な人々が共生しながら、心豊かに幸せを感じられる社会（Well-being）を目指すとともに、地域に関わる多様な主体の協働によるコミュニティの活性化・醸成を図るため、交通・福祉・防災などの様々な分野による横断的なまちづくりが必要です。

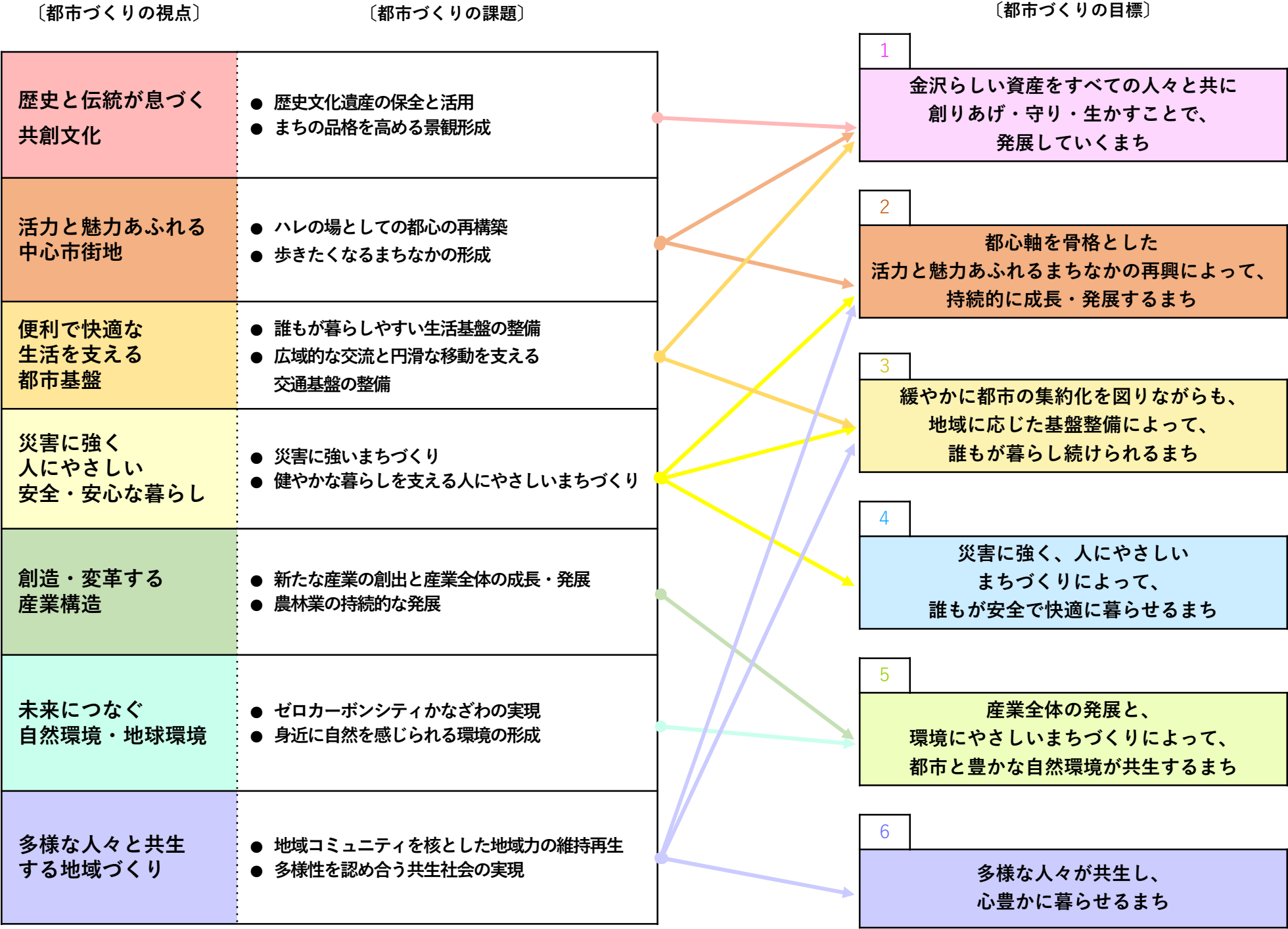
【地域コミュニティを核とした地域力の維持再生】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
1	市民が主体となったまちづくりルール の普及推進・適正運用		■	★
2	地域団体や市民活動団体、学生、事業者などの多様な主体との連携強化によるまちづくりの推進	●	■	★
3	市民活動や組織への支援による地域コミュニティの活性化	●		★
4	旧町名の継承・復活などによる地域コミュニティの醸成	●		
5	地域活動等における連携コーディネート機能の強化	●		
6	関係人口の創出・拡大による地域力の維持再生	●		
7	自主防災組織の充実と市民防災意識の向上（再掲）	●		
8	地域活動・市民活動に対する新たな担い手の発掘・育成	●		

【多様性を認め合う共生社会の実現】

課題との関連性⇒		共創	中間	市民
9	日本人・外国人住民双方が暮らしやすい環境の形成	●		★
10	災害の種類や規模に応じた避難場所などの防災施設の確保と高齢者、女性、外国人、LGBTQ等の目線も含めた機能の充実・強化（再掲）			★
11	ハード・ソフトのバリアフリー化、ユニバーサルデザインのまちづくりの推進（再掲）	●		★
12	障害のある人の情報格差解消に向けたICTの活用充実（再掲）	●		

■都市づくりの目標（案）



都市の将来像

すべての人々と共に 創りあげる 持続的に発展する成熟都市

「多様な人々が共生した持続可能なまちづくり」を根幹的・横断的な基本方針とし、「共創文化都市の形成」、「中心拠点型都市の形成」、「地域持続型都市の形成」、「防災・減災都市の形成」、「産業・環境共生の形成」を推進することで、『すべての人々と共に創りあげる持続的に発展する成熟都市』の実現を目指します。

基本方針 1 共創文化都市の形成

- 藩政期から培われてきた歴史や伝統、学術、産業、文化など金沢らしい資産を地域全体で守り、磨き高めるとともに、その資産を生かした新たな文化・価値を創造し続けることで、持続的に成長・発展する共創文化都市の形成を目指します。

基本方針 4 防災・減災都市の形成

- 激甚化・頻発化する自然災害に備えた計画的なまちづくりにより、国土の保全を図ることで、誰もが安全・安心に暮らせる防災・減災都市の形成を目指します。



基本方針 2 中心拠点型都市の形成

- これまでも都市の発展の中枢を担ってきた中心市街地や居住誘導区域において、骨格となる都心軸の再興によりまちの魅力を高めるとともに、居住や商業・業務などの都市機能を誘導することで賑わいと活力を創出し、中心市街地が今後とも都市の持続的な成長・発展を支える中心拠点型都市の形成を目指します。

基本方針 5 産業・環境共生都市の形成

- 産業共生都市の形成
- まちの発展を支える金沢の個性ある産業全体の成長・発展を促進しつつ、農林業の持続的な振興にも取り組むことで、創造・変革していく産業共生都市の形成を目指します。
- 環境共生都市の形成
- 潤いある良好な自然環境の保全に取り組むとともに、「ゼロカーボンシティかなざわ」の実現による環境共生都市の形成を目指します。

基本方針 3 地域持続型都市の形成

- 都市経営の持続性を確保するため、人口の受皿としての市街地の拡大は原則として行わないものとし、まちなか区域や居住誘導区域への緩やかな都市の集約化を図りながらも、郊外市街地や田園・中山間地域など市全体において誰もが暮らし続けられる地域持続型都市の形成を目指します。

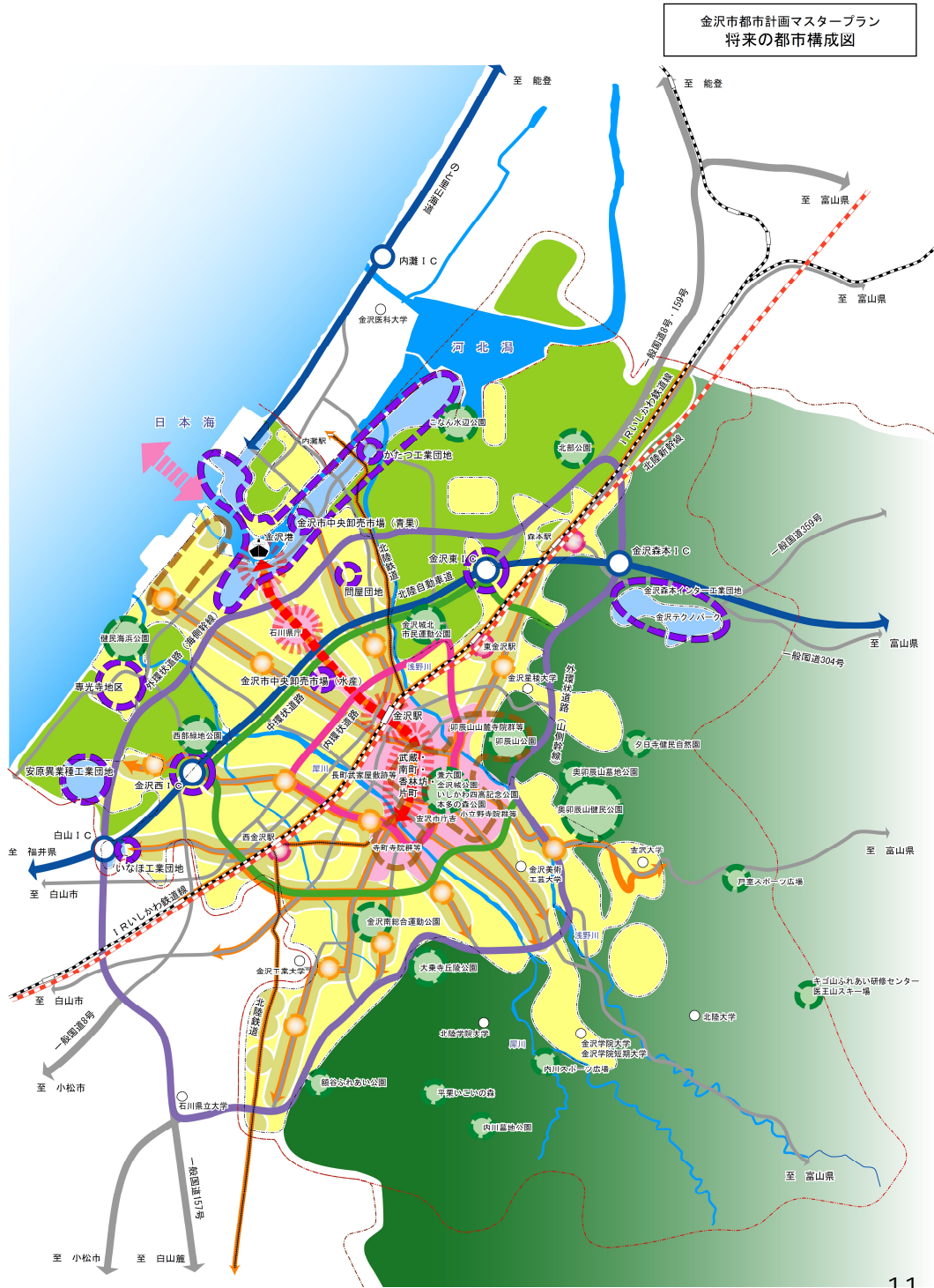
基本方針 6 多様な人々が共生した持続可能なまちづくり

- 心豊かに幸せを感じられる社会の実現に向け、地域に関わる多様な人々の視点や活力を生かした各種コミュニティの醸成や連携の強化を図る取り組みを推進することで、多様な人々が共生した持続可能なまちづくりを目指します。

※「市街地」は市街化区域を表す。

都市の構成（案）

土地利用構成	市街地ゾーン 【中心市街地・都心軸区域】		・中心市街地と金沢駅から金沢港までの都心軸沿線では、様々な都市機能が集積した利便性の高い都市生活を確保し、賑わいの向上を図る。
	市街地ゾーン 【居住誘導区域】		・公共交通重要路線などの利便性の確保や歴史文化遺産の保全・活用に努めるとともに、日常生活に必要なサービス機能と居住の誘導を推進する。
	市街地ゾーン 【一般居住区域】		・用途に応じた適正な土地利用を誘導するとともに日常生活に必要な施設を維持・更新しながら、市民誰もが安全・安心に暮らせる良好な市街地を維持する。
	市街地ゾーン 【その他の区域】		・工業専用地域など住宅の立地を制限する区域では、物流機能や広域的な交通結節点としての利便性を生かした良好な工業地を形成する。
	農業環境ゾーン		・地域コミュニティの核となる地域交流拠点を形成することで、都市における農産物の生産・供給の場としての土地利用がされる良好な農業環境を形成し、市街地との共存・発展を目指す。
	自然環境ゾーン		・地域コミュニティの核となる地域交流拠点を形成することで、多面的機能を有する農地や森林を保全し、市街地との共存・発展を目指す。
道路・交通軸	広域交通ネットワーク	  	・各方面への広域道路ネットワークの強化を図るとともに、鉄道間の連携強化による交通利便性の向上、サービス水準の向上に努める。 ・金沢港の拠点機能の向上、世界の都市との玄関口となる県内各空港との二次交通手段の拡充などによる連携強化を図る。
	都市内交通ネットワーク	   	・選択と集中による必要道路の整備を推進するとともに、バスや鉄道などの公共交通ネットワークの強化を図る。 ・安全・安心な交通環境の確保に努めるとともに、多様な移動手段を確保した交通体系を構築する。
都市機能拠点	都心軸上拠点		・片町・香林坊・広坂・南町・武蔵地区では、地区の特性に応じた都市機能を集積し、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成を図る。 ・金沢駅周辺地区では、商業・業務機能のほか文化・学術機能などのまち全体のにぎわい創出に資する多様な都市機能を備えた金沢の玄関口として、魅力あふれる都市空間を形成する。 ・石川県庁周辺地区では、駅西新都心の核として都市機能の集積、賑わい創出を図る。 ・金沢港周辺地区では、海の玄関口となる交流拠点としての機能強化により、賑わい創出を図る。
	地域拠点		・商業・業務機能や教育機能など、様々な交流と賑わいを創出する都市機能を集積するとともに、乗り継ぎ環境を向上させることで、さらなる交通結節機能の向上を図る。
	生活拠点		・市民が日常的に必要な買い物ができる商業機能を維持することで、生活利便性の確保を推進する。
	流通・産業拠点		・金沢港周辺は、海の玄関口として港湾・物流機能の強化及び港湾関連企業の集積を図る。 ・既存の工業団地においては、各地区の特性に応じた産業を育成し、集積を高めることで、産業構造の高度化・多様化を図る。 ・IC周辺や金沢市中央卸売市場（青果・水産）、問屋団地では、広域交通ネットワークへのアクセスの良さを生かし、流通機能を集積する。
	歴史・文化拠点		・歴史文化遺産の積極的な保全・活用を進めるとともに、これらを介した交流の場を生みだすことで、金沢市を象徴する空間として保全・活用を図る。
	レクリエーション拠点		・各公園の特性を生かした施設の整備・維持管理と機能の充実を図る。
	学術拠点		・市民、大学、行政の連携を深めるとともに、大学門前として周辺を含めた教育環境の形成を行うことで、さらに質の高いまちづくりの展開を目指す。



■都市づくりの方針（案）

3-1 土地利用の方針

市街地の拡大は原則として行わない方針のもと、金沢特有の地形・風土を守りながら、自然と都市が調和・共存する土地利用の実現を目指す。

市街地では、集約都市を目指した都市構造の緩やかな誘導を図りつつ、空き家・空き地の活用を促し、適切な土地利用により、良好な住宅地、商業・業務地、工業地、沿道活用地区の形成を図る。

市街地以外では、人々の生活との共存を図りながら、農業環境や自然環境を保全する。

A.住宅地 B.中心商業・業務地区 C.工業地 . . . G.自然環境保全地区 など

3-2 市街地整備の方針

本市のまちづくりの規範である「保全と開発の調和」を基本として、持続可能で魅力ある都市の形成を推進するため、住宅基盤、商業・業務基盤、工業基盤の適切な整備を推進し、市街地基盤の充実を図るとともに、災害に強い都市構造の構築や防災機能の充実に取り組む。

A.住宅基盤 B.商業・業務基盤 C.工業基盤

3-3 交通施設等整備の方針

歩行者・自転車・公共交通優先のまちづくりの実現に向けて、公共交通重要路線の利便性の向上や地域の特性に応じた移動手段の維持・確保に取り組むとともに、安全で快適、魅力ある通行空間の確保を図る。

また、北陸自動車道、国・県道などの広域道路ネットワークの強化や、外環状道路や東西南北を連結する放射・環状道路の整備、緊急輸送道路などの強靱な都市内道路ネットワークの形成、長期未着手の都市計画道路の見直し、生活道路を含めた道路の整備・維持管理により、道路交通の円滑化及び安全・安心の確保などに向けたまちづくりの推進を図る。

A.道路 B.公共交通 C.歩行者・自転車 D.その他交通施設 E.港湾

3-4 公園緑地整備の方針

金沢の地形や歴史文化、都市が育んできた重層的で豊かな緑の資産を、多様な主体との協働により、次世代に引き継ぐとともに、新たな魅力の創出と活用に取り組む。

また、公園緑地の機能分担・再編や機能強化を進め、コミュニティ活動の活性化や利用者満足度の向上など、多様な公園緑地機能充実・強化を図るとともに、市民協働や民間活力を生かした効率的・効果的な運営・管理を目指す。

A.都市の緑 B.歴史文化の緑 C.地形の緑 D.都市全体の緑の環境

3-5 主な供給処理施設整備の方針

供給処理施設の長寿命化計画などに基づき、総合的かつ計画的な維持管理・更新や耐震化を進めるとともに、周辺市町との連携や多様な主体との協働により、安定的な供給・処理に努める。

A.上水道 B.下水道 C.ガス D.ごみ処理施設など

3-6 公共公益施設整備の方針

多様化する市民ニーズなどに対応した公共公益施設の充実を図るとともに、長寿命化計画などに基づく計画的な維持管理・更新や、持続的な再整備を進めることで施設の安全性を確保し、快適な市民サービスの提供に努める。

また、公共施設をはじめとした建築物や移動環境、情報サービス環境のバリアフリー化を進めることにより、誰もが使いやすいユニバーサルデザインのまちづくりを推進する。

A医療・介護・高齢者福祉施設 B教育・文化施設 C生涯学習・スポーツ施設 など

3-7 農地と森林の整備、保全、活用の方針

集落の生活や生業に必要な農地や森林は、自然環境・国土の保全、良好な景観形成、水源かん養や土砂災害防止、農林業、観光などの多面的な機能を有する重要な地域資源であり、必要な整備・保全と有効活用（農林基盤づくり）を推進する。

また、農林基盤づくりの取組は、担い手の確保・育成が不可欠であることから、無秩序な市街化を抑制しながら、農林業の担い手が暮らす既存集落を中心としたコミュニティの活性化・生活環境の維持等を図っていく必要がある。

そのため、農林基盤づくりの取組と合わせて、地域住民等との協働による都市計画制度などを活用した新たな支援を行うことで、活力ある田園・中山間地域づくりを推進する。

A.農林基盤づくり B.活力ある地域づくり

3-8 景観・都市環境形成の方針

丘陵や台地・斜面緑地、河川・用水など金沢特有の地形を保全するとともに、歴史的風致の維持向上、地域の歴史文化遺産の保全・活用、木の文化都市の継承・創出を図る。

また、景観は市民共有の財産であるという考え方のもと、多様な主体と協働・連携し、自然・歴史・伝統・文化が調和した魅力と個性ある良好な景観を創出する。

更に、自然環境の保全に加え、再生可能エネルギーの利用や温室効果ガスの排出抑制による脱炭素社会の実現に向けた取組を進め、持続可能で調和のとれた都市環境を創出する。

A.都市景観 B.歴史的風致 C.自然環境 D.地球環境

3-9 安全安心な都市づくりの方針

市民や来街者が安全・安心、快適に過ごせる都市づくりを目指し、令和6年能登半島地震の教訓を踏まえた防災・減災対策や、石川県地震被害想定の見直し結果に応じた避難所や防災備蓄の確保・充実などにより、本市の災害対応体制の強化を図るとともに、計画的な災害対策を推進する。

A.災害に強い都市構造の形成 B.災害対応体制の強化 C.防犯

3-10 多様な主体による協働のまちづくり方針

まちづくりの担い手を発掘・育成し、市民活動及び組織への支援を行うほか、まちづくりルールの普及と適正な運用などにより、多様な人々が共生し、心豊かに幸せを感じられる社会（Well-being）の実現を目指す。

また、多様な主体の協働による地域コミュニティの形成・活性化を図り、活力あるまちづくりを進めていく。

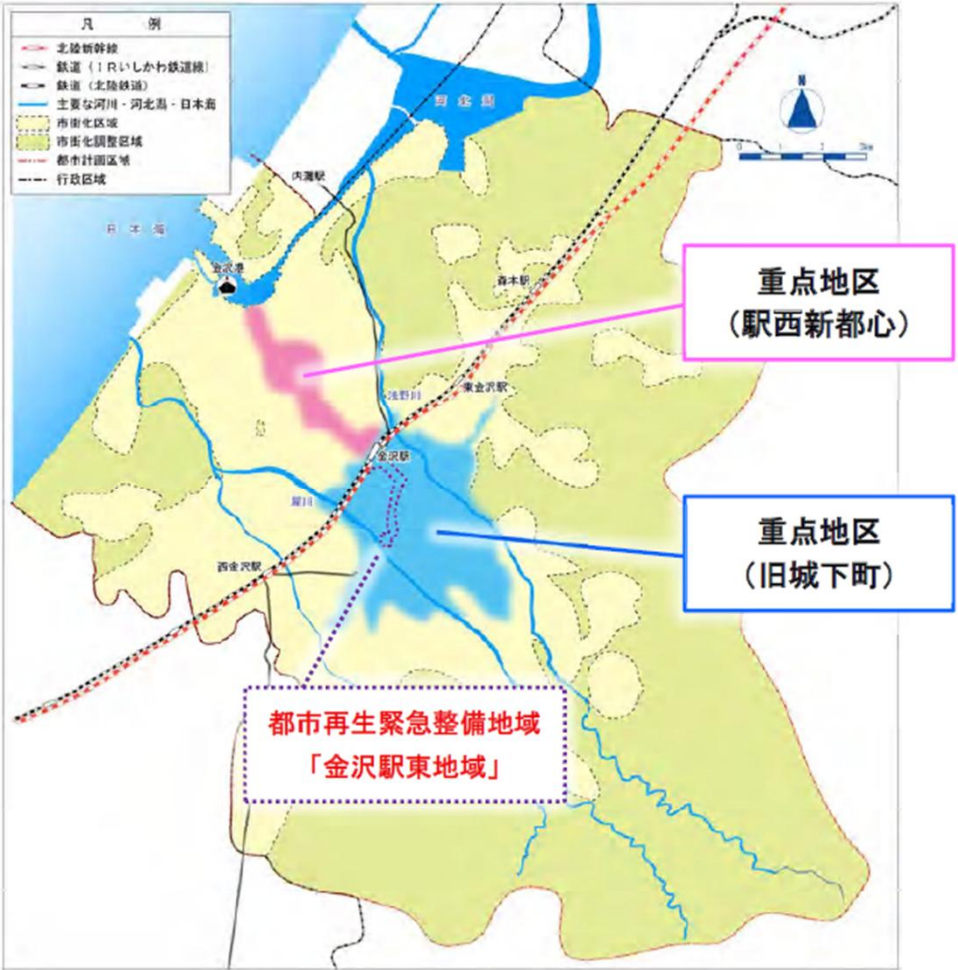
A.協働の推進 B.地域コミュニティの活性化 C.多様な人々との共生

重点地区のまちづくり方針（案）

重点地区の設定

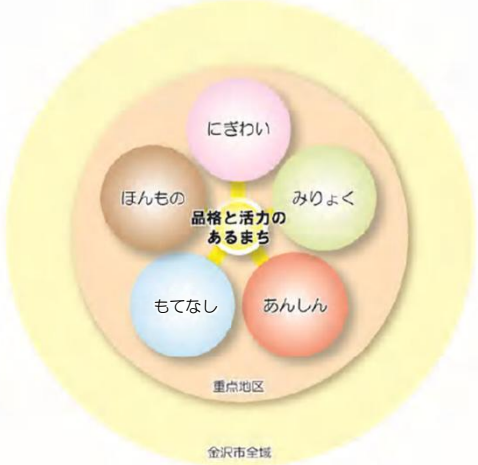
藩政期からの都市構造を今に残す旧城下町区域は、本市の歴史文化の源であり、商業、業務など様々な都市機能の中核を担う金沢の都心である。また、高度経済成長期以降の人口増大の受け皿として都市を支えてきた駅西新都心のうち、金沢駅西から金沢港に至る都心軸周辺は都市機能の集積や賑わいの創出によりまちづくりを牽引する役割を担っている。

これら二つの区域は本市のまちづくりを進める上で特に重要な区域であることから重点地区に位置付け、まちづくりのテーマと方針を示す。



重点地区のまちづくりテーマ

品格と活力のあるまちを目指し、「にぎわい」、「ほんもの」、「みりょく」、「もてなし」、「あんしん」を磨き高める。



重点地区のまちづくり方針

1. 多様な人々が住まい、営み、交流する「にぎわい」
 - A. まちなかの居住環境の形成
 - B. 賑わいを創出する商業、流通、業務などの機能強化
 - C. 交流を促進する交通環境の形成
2. 生活に根付いた世界に誇る「ほんもの」
 - A. 歴史都市としての品格の継承と発信
 - B. 世界に誇る「ほんもの」の継承と創造
3. 金沢の個性を生かした新たな「みりょく」
 - A. 金沢の個性を生かした魅力ある景観の創出
 - B. 個性を磨く新たな魅力の創出
4. やさしさと親しみに満ちた「もてなし」
 - A. 観光受入環境の充実と交流の促進
 - B. まちの価値を共有し、共に高めていく機会の充実
5. 災害に強く安全に住まい、滞在できる「あんしん」
 - A. 大規模災害に備えた防災・減災対策の強化